

教育プロジェクトプログラム

学校教育課題サブプログラム



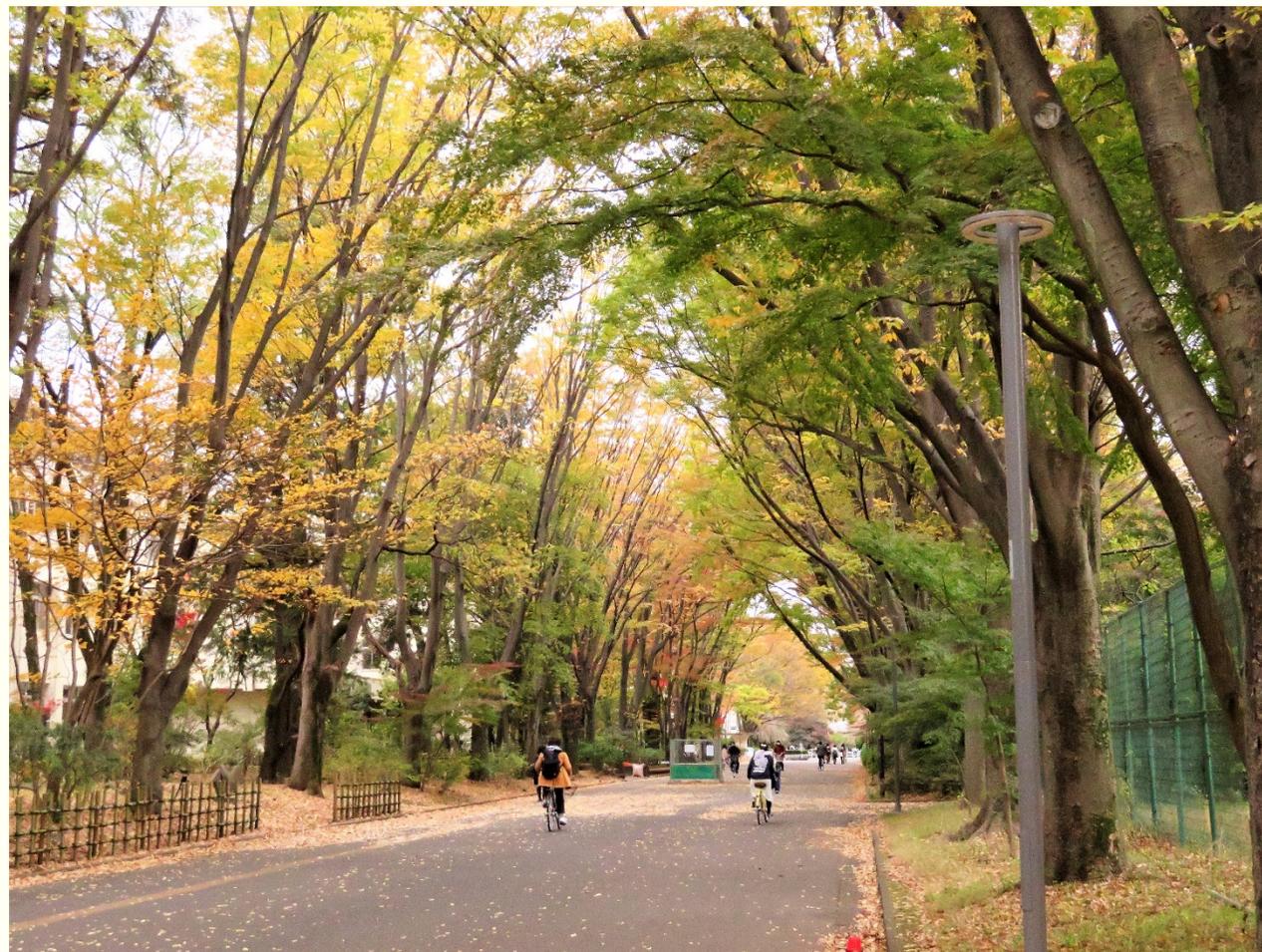
教職大学院 | 教育プロジェクトが育てる力

【教職大学院が育てる力】

- ❖ 実践的な指導力
- ❖ 創造的な改革力
- ❖ 柔軟な実践力
- ❖ 実践と理論の融合力
- ❖ 先導的な組織力

【教育プロジェクトが形成する力量】

- ❖ 喫緊の教育課題に関わる力量



教育プロジェクト 学校教育課題サブプログラムとは

教育プロジェクトプログラム

現代の学校において高度で専門的な対応が求められる教育課題に対して、課題や環境を分析して整理する能力、課題を深く理解し状況やケースに応じて対処できる能力、教職員をはじめ多様な資源を有する人材を組織化する能力を身につけることをねらいとする。「学校教育課題」「国際理解・外国人児童生徒教育」「環境教育」の3つのサブプログラムを置く。



学校教育課題サブプログラムの特徴

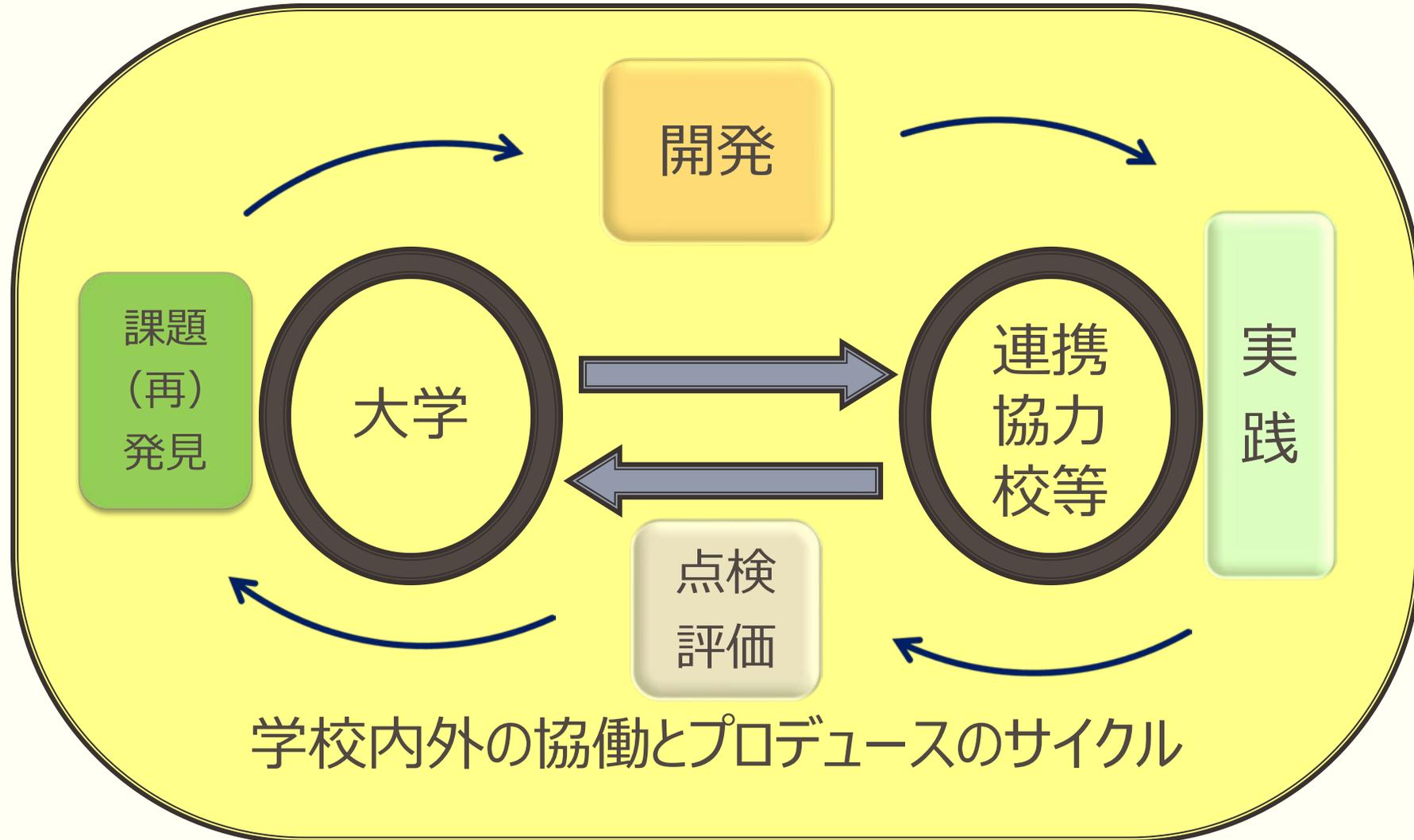
- いじめ、不登校、学校不適應、教育格差、教師・教職をめぐる問題、子どもの社会化、インクルーシブ教育や人権教育に関する課題など、さまざまな学校教育課題を、広い視野から多角的に分析し、状況に応じて対応しうる力量を身につけることをねらいとしたプログラムである。
- 学校や社会で既に問題とされていることのみならず、問題とされていないこと—あたりまえとみなされてあえて問われることがない—にこそ問題が内在しているかもしれない。そのような問題にも光を当て、学校教育の改善に向かえるようになることを目指す。

カリキュラム構成（科目群の構成）



❖専攻必修科目	: 10単位（5科目）	※共通5領域を専攻全体で開設
❖プログラム必修科目	: 6単位（3科目）	※基礎科目1科目，演習2科目
❖高度選択科目	: 16単位（8科目）	
❖教職専門実習	: 10単位（必修）	※現職教員は2単位（8単位は免除）
❖課題研究	: 4単位（必修）	※時間割外（8単位まで修了単位への算入可）
<hr/>		
❖合計	: 46単位	

カリキュラムの特徴



共通科目

5
領
域

カリキュラムデザイン

カリキュラム開発の方法を学びます

授業実践研究

授業実践研究の方法を学びます

子どもの理解と支援

子どもの理解と支援方法を学びます

教員のための
学校組織マネジメント

学校組織や学級運営の方法を学びます

教師の社会的役割と
キャリア形成

教師として社会的役割を意識化し、
キャリア形成について学びます

学校教育課題サブプログラムが提供する
プログラム科目（選択必修科目） 高度選択科目（選択科目）

3
科
目

学校教育課題の現状と
実践プログラム

学校教育課題演習Ⅰ

学校教育課題演習Ⅱ

4
科
目

特別活動・生徒指導の
理論と方法

子どもと教師を
めぐる問題の検討

教育相談と教育臨床の
理論と方法

学校教育課題の
研究開発法

教職専門実習

■ 目的

【学卒生】大学院と実習校との往還。理論と実践との往還により、以下の5領域について、その実践を総合的かつ客観的に観察したり、体験・参画したりすることにより、実践的な指導力を身に付け、教師としての資質・能力を高めていきます。

【現職院生】以下の5領域における自らの実践を相対化し、さらに伸ばすべき自らの資質・能力を開発します。

- 【領域 1】 教育課程の構成・実施に関する領域
- 【領域 2】 教科等の実践的な指導法に関する領域
- 【領域 3】 生徒指導、教育相談に関する領域
- 【領域 4】 学級経営、学校経営に関する領域
- 【領域 5】 学校教育と教員の在り方に関する領域

教職専門実習

- 特徴：学部実習とはここが違う

【特徴 1】 実務研修的性格：
教員免許状を有する者により行われる

【特徴 2】 研究的実践性格：
実習期間中も共通科目、選択科目などの
授業と往還し、同時に課題研究を行いながら
実習は行われる

- 学校教育課題サブプログラムの特徴

教科指導のみならず、生徒指導・教育相談、特別活動・総合的な学習の時間、進路指導・キャリア教育、学校文化など、学校と社会をめぐる問題に着目しながら実習を行います

教職専門実習とリンクした課題研究

- 学生が自らの問題意識に基づき課題を設定する
- 実習等を通して、課題の実践的な解決をめざす
- 公開発表会等で研究成果を発表・発信する

課題研究

教職専門実習

プログラム科目・高度選択科目

共通科目

課題研究

【最近の課題研究題目】

- 小学校高学年における「本離れ」に対する検討－第6学年を対象とした読書推進のための実践を通して－
- 生徒の学校生活における安心感の検討－教師との関わりに焦点をあてて－
- 生徒たちの対話力を高める教育実践とは～悩みを吐露し相談できる環境をつくるために～
- 小学校に求められる小中連携教育の在り方
- 自然体験を一人ひとりのウェルビーイングにつなぐ小学校－対人関係を広げる別室登校支援－
- 小学校における構成的グループ・エンカウンターの実践と課題－学校適応感向上を目指して－
- 教育活動を「改善」する中で何が起こっていたのか？－公立A中学校における教員インタビュー調査をもとに－
- エンカレッジスクールにおける学校適応感・学校生活意欲の向上
- 中学生による悪口の動機－否定的側面への言及と場面に着目した分析－
- 中学1年生の夏休み明けにおける学校不適應の未然防止に向けたプログラムの開発
- 公立中学校の通常学級における要支援児の社会参加に向けた日本のインクルーシブ教育の現状と課題－関係機関連携の必要性に着目して
- 教師はなぜ部活動を続けられるのか－中学校における教師と生徒に対する調査をもとに－
- 秋田県のふるさと教育の現状と課題～充実と推進に向けた方策の提案～
- 子どもの育ちと学びをつなぐ幼小連携の取り組み

担当教員

教員名	専門分野	研究テーマ
金子 真理子	教育社会学	学校文化、カリキュラム、教師の社会学的研究
林 尚示	教育方法学	特別活動、生徒指導、人権教育、総合的な学習の時間等の研究
伊藤 秀樹	教育社会学	教育問題、生徒指導、進路指導、課題集中校での支援
腰越 滋	教育社会学	子どもの社会化、子ども期の読書と社会性涵養、データ解析
小林 玄	教育臨床心理学	教育相談、インクルーシブ教育、発達障害、アセスメント
松山 康成	教育心理学	修復的アプローチ、ポジティブ行動支援、生徒指導、学級経営
平原 保 (特命)	教育経営学	学校経営、生徒指導、スクールロイヤー